

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年4月14日
【事業年度】	第80期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）
【会社名】	株式会社ハウスイ
【英訳名】	HOHSUI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋昌明
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地五丁目2番1号
【電話番号】	東京（03）3543-3536
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部副本部長 小林留一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地五丁目2番1号
【電話番号】	東京（03）3543-3536
【事務連絡者氏名】	執行役員 管理本部副本部長 小林留一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の連結子会社(持分比率100%)である株式会社せんにち(以下「せんにち」という。)において、同社の元従業員により、過去3年間にわたって、同社の仕入先からの請求書を偽造するなどの手法により、支払金を着服していた事実が判明いたしました。

かかる着服の事実を受けて、せんにちは、同社の顧問税理士事務所及び公認会計士に対し、着服に関する事実関係についての調査を依頼したところ、本調査の過程において、平成25年4月の設立以降3年間にわたり、得意先との取引につき、会計処理の誤りと見られるものも含めて、売上が過大に計上されていたなどの報告を平成28年3月上旬に受けました。

当社としては上記調査結果を受け、当社の監査法人と協議を行い社内調査を実施した結果、当社が平成27年6月24日に提出いたしました第80期(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)に係る有価証券報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表については、監査法人和宏事務所により監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

- (1) 連結経営指標等
- (2) 提出会社の経営指標等

第2 事業の状況

1 業績等の概要

- (1) 業績
- (2) キャッシュ・フローの状況

2 生産、受注及び販売の状況

- (2) 商品仕入実績
- (4) 販売実績

7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

- (2) 当連結会計年度の経営成績の分析
- (3) 財政状態
- (4) キャッシュ・フローの分析

第4 提出会社の状況

3 配当政策

第5 経理の状況

2. 監査証明について

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

- (連結損益計算書関係)
- (金融商品関係)
- (税効果会計関係)
- (セグメント情報等)
- セグメント情報
- 関連情報
- 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報
- 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報
- (1株当たり情報)

(2) その他

2 財務諸表等

(1) 財務諸表

- 貸借対照表

損益計算書
株主資本等変動計算書
注記事項
（損益計算書関係）
（有価証券関係）
（税効果会計関係）
附属明細表
引当金明細表

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (百万円)	35,986	43,628	44,451	50,486	67,391
経常利益 (百万円)	251	505	516	290	283
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	123	199	248	125	295
包括利益 (百万円)	146	256	314	171	243
純資産額 (百万円)	5,414	5,499	5,642	5,641	5,226
総資産額 (百万円)	12,534	14,271	17,146	24,423	24,313
1株当たり純資産額 (円)	62.38	62.78	63.91	63.54	58.50
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	1.47	2.38	2.97	1.50	3.53
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.7	36.8	31.2	21.8	20.1
自己資本利益率 (%)	2.36	3.80	4.65	2.36	-
株価収益率 (倍)	71.3	49.9	43.4	86.5	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	726	1,638	60	656	1,058
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	961	881	3,466	6,140	55
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	225	594	3,087	6,415	997
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	816	979	660	1,592	1,598
従業員数 (人)	222	218	226	287	285
[外、平均臨時雇用者数]	[198]	[221]	[211]	[340]	[363]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれていない。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (百万円)	15,099	16,231	16,260	18,718	19,556
経常利益 (百万円)	123	244	286	220	267
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	63	98	151	54	307
資本金 (百万円)	2,485	2,485	2,485	2,485	2,485
発行済株式総数 (千株)	83,790	83,790	83,790	83,790	83,790
純資産額 (百万円)	5,347	5,279	5,277	5,172	4,733
総資産額 (百万円)	10,243	10,134	13,259	18,803	17,541
1株当たり純資産額 (円)	63.85	63.04	63.01	61.77	56.52
1株当たり配当額 (円)	2	2	2	2	2
(内1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 () (円)	0.76	1.18	1.81	0.65	3.67
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.2	52.1	39.8	27.5	27.0
自己資本利益率 (%)	1.19	1.87	2.87	1.05	-
株価収益率 (倍)	138.3	100.9	71.4	200.7	-
配当性向 (%)	263.5	169.6	110.7	308.7	-
従業員数 (人)	166	153	157	158	160
[外、平均臨時雇用者数]	[20]	[19]	[18]	[72]	[55]

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれていない。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【沿革】

- 昭和20年 8月 東京都日本橋区に資本金175千円をもって報國水産株式会社を設立。東京湾内沿岸漁業を行う。
- 昭和21年11月 以西底びき網漁業及びかつお・まぐろ漁業に着手。
- 昭和24年 5月 東京証券取引所に株式を上場。
- 昭和30年 5月 母船式さけ・ます漁業に出漁。
- 昭和36年10月 東京証券取引所市場第一部に編入。
- 昭和39年 8月 本社・新社屋を中央区築地七丁目に竣工。
- 昭和40年 8月 アラスカ南海域の北方トロール漁業に出漁。
- 昭和42年 5月 西アフリカ海域の南方トロール漁業に出漁。
- 昭和45年 7月 インドネシアに えびトロール事業を目的とする合弁会社P.T. IRIAN MARINE PRODUCT DEVELOPMENTを設立。(平成20年 3月所有全株式売却)
- 昭和47年 7月 パプア・ニューギニアにかつお事業を目的とする合弁会社NEW GUINEA MARINE PRODUCTS PTY., LTD.を設立。昭和50年 2月から同社はえびトロール事業の本格操業に入る。(平成 3年 3月所有全株式売却)
- 昭和50年12月 南太平洋フィジー海域のかつお漁業に出漁。
- 昭和54年 4月 アラスカに水産物買付及び加工事業を目的とする現地法人NORTHERN SEAFOODS, INC.を設立。
- 昭和56年 8月 鹿児島県串良町に養殖事業を目的とする日南養魚株式会社を設立。(平成 6年10月解散)
- 昭和58年10月 北洋水産株式会社と合併。
- 昭和59年 8月 商号を株式会社ハウスイに変更。
- 平成 3年11月 本社を中央区築地三丁目に移転。事業基盤を漁撈事業から買付商品事業へシフト。
- 平成 6年 7月 本社を中央区八丁堀一丁目に移転。
- 平成 8年 3月 恵光水産株式会社の増資に応じ同社を子会社とする。(株式所有割合60%)
- 平成 8年 4月 鮮魚販売事業を開始。
- 平成11年 4月 日東シュリンプ株式会社の株式を取得し同社を子会社とする。(株式所有割合80%)
- 平成13年 1月 日東シュリンプ株式会社及び恵光水産株式会社を100%子会社とする。
- 平成13年 4月 日東シュリンプ株式会社を吸収合併。
- 平成20年 3月 株式会社水産流通の増資に応じ同社を子会社とする。(株式所有割合60%)
- 平成20年 4月 中央冷凍株式会社を吸収合併
- 平成20年 6月 船橋冷蔵庫(千葉県船橋市)を増設(4,312t)

- 平成20年 8月 株式会社水産流通が中央フーズ株式会社の株式を取得（当社の株式間接所有割合60%）
本社を中央区築地五丁目に移転
水産事業本部を中央区築地四丁目に移転
- 平成21年 4月 大阪支店を開設
- 平成22年 4月 船橋流通センターを開設
- 平成22年 7月 厚木第二物流センター(神奈川県伊勢原市)を増設（10,167 t）
- 平成23年 2月 豊海第三冷蔵超低温庫(東京都中央区)を取得（7,500t）
- 平成25年 4月 大阪府吹田市に厚焼玉子事業等を目的とする株式会社せんにち を設立（株式所有割合100%）
- 平成26年 1月 市川物流センター(21,725t)及び市川流通センターを千葉県市川市に開設

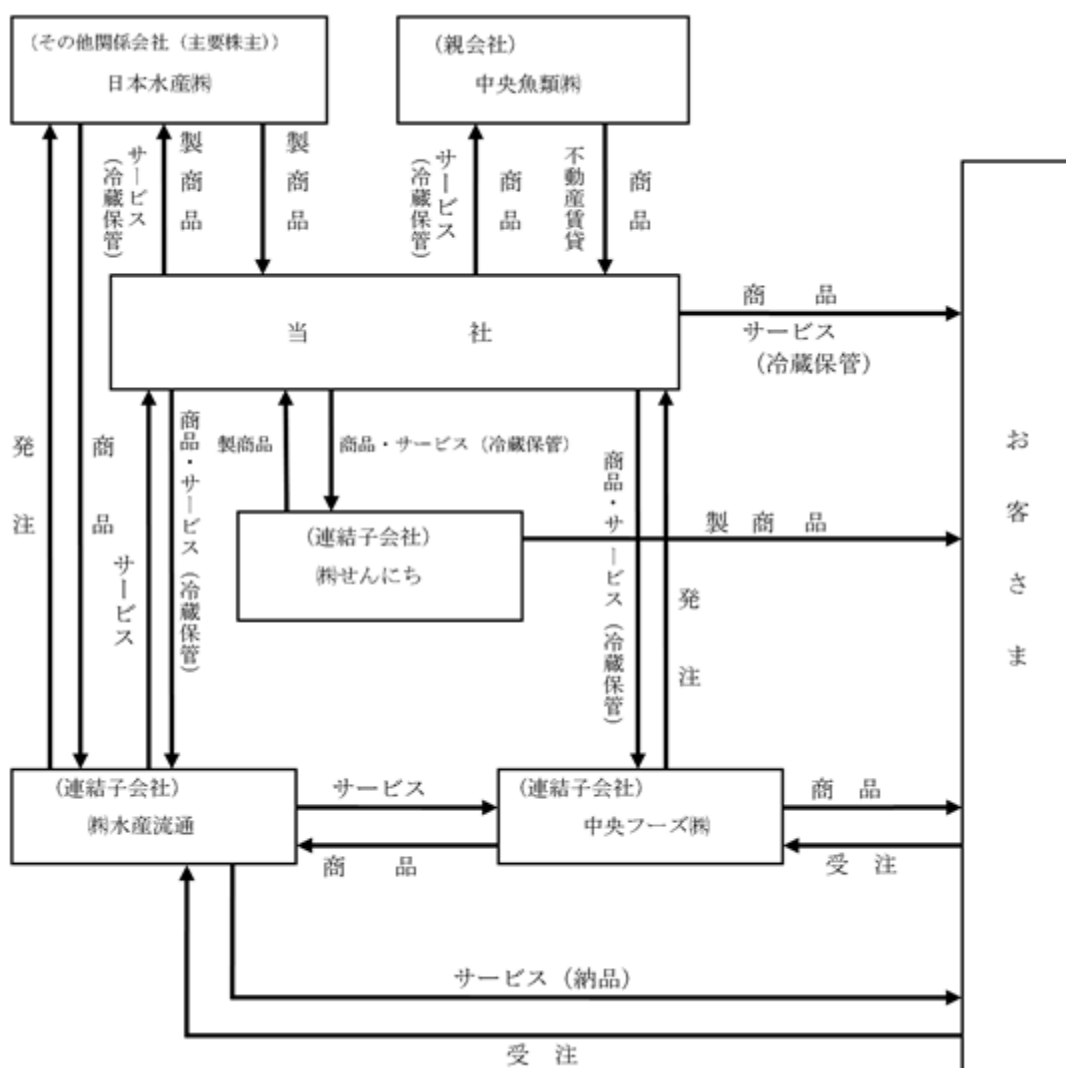
3【事業の内容】

3月末の当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社、親会社、子会社3社(㈱せんいち、㈱水産流通、中央フーズ㈱)、その他の関係会社(主要株主)で構成されており、冷蔵倉庫保管、水産物の買付販売、リテールサポート業務、水産練製品・惣菜他(厚焼玉子等)の製造・加工販売などを主な内容とした事業活動を営んでおります。

当社の企業集団の事業内容及び当該事業における位置付けは次のとおりです。なお、次の事業区分は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。また、当連結会計年度より、従来の「水産物卸売事業」から「水産食品事業」へと報告セグメントの名称を変更したことに伴い、本項の事業区分に関しても同様に変更しております。報告セグメント名称の変更の詳細については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」をご参照下さい。

- (1) 冷蔵倉庫事業 …… 当社において、水産物を中心に畜産物、農産物およびその加工品の冷蔵・冷凍保管業を営んでおります。
- (2) 水産食品事業 …… 当社グループにおいて、えび、かに、いか、凍魚などの水産物の水産食材卸売業、食材調達・加工・納品業務を請け負うリテールサポート業、水産練製品・惣菜他(厚焼玉子、おぼろ、錦糸等)の製造・加工販売を行う食品製造販売業を営んでおります。

当社グループの事業系統図は次のとおりです。



4【関係会社の状況】

(1) 親会社

親会社である中央魚類株式会社の状況については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表注記事項(関連当事者情報)」に記載しているため、記載を省略しております。

なお、親会社は有価証券報告書を提出しております。

(2) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(株)せんにち	大阪府吹田市	90	水産食品事業	100.0	水産練製品等の販売ノウハウをを共有し、今後成長拡大する。 役員の兼任等...有
(株)水産流通	東京都中央区	200	水産食品事業	60.0	水産物の販売ノウハウを共有し、今後成長拡大する。 役員の兼任等...有
中央フーズ(株)	東京都中央区	10	水産食品事業	60.0 (60.0)	水産物の販売ノウハウを共有し、今後成長拡大する。 役員の兼任等...有

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載している。

2. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数である。

(3) その他の関係会社

主要株主である日本水産株式会社の状況については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表注記事項(関連当事者情報)」に記載しているため、記載を省略しております。

なお、同社は有価証券報告書を提出しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数
冷蔵倉庫事業	115[17]
水産食品事業	150[346]
全社（共通）	20[-]
計	285[363]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。
2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属している。

(2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
160	42.2	16.7	6,174,691

セグメントの名称	従業員数
冷蔵倉庫事業	115[17]
水産食品事業	25[38]
報告セグメント計	140[55]
全社（共通）	20[-]
合計	160[55]

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載している。
2. 平均年間給与は、税込み給与額の平均であり賞与を含んでいる。
3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、管理部門に所属している。

(3) 労働組合の状況

平成27年3月31日現在

職種	組合員数（名）	労働組合の名称	所属上部団体	特記事項
職員	80	ハウスイ労働組合	日本食品関連産業労働組合総連合会	なし

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府、日銀による景気対策効果や円安進行に伴い大手製造業の収益改善が見られる等、国内経済は緩やかな回復基調にあるものの、消費税増税や物価上昇を背景に生活必需品に対する購買意欲の冷え込みが続く等、国内消費の回復の動きは弱く、景気の先行きについては依然不透明な状況にあります。

一方、水産・食品業界におきましては、円安による原材料の輸入価格の上昇や、消費者の変わらぬ低価格志向・節約志向により厳しい経営環境にありました。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き顧客のニーズに迅速に対応するとともに、増強してきた設備やグループの持つ機能を最大限に活用して収益の確保に努めてまいりました。

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、新設事業所における新規顧客との取引開始等により、前年対比増収となりましたが、それに伴う費用増大やのれんの減損損失などの結果、売上高673億91百万円（前年同期比169億4百万円 33.5%増）、営業利益2億36百万円（前年同期比36百万円 18.3%増）、経常利益2億83百万円（前年同期比7百万円 2.4%減）、当期純損失が2億95百万円（前年同期は1億25百万円の当期純利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、従来の「水産物卸売事業」から「水産食品事業」へと報告セグメント名称を変更しております。なお、当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

冷蔵倉庫事業

冷蔵倉庫事業は、本格稼働した市川物流センター（21,725トン）をあわせて、首都圏9ヶ所に冷凍・冷蔵保管スペース（14万トン）を有し、水産物を中心に畜産物、農産物およびその加工品の保管事業を行っております。当連結会計年度は、消費停滞により在庫回転数が低下したことと市川物流センターの庫腹増も含めて全般的に在庫量が増加したことにより保管料収入が増加しました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の売上高は48億98百万円（前年同期比6億32百万円 14.8%増）となり営業利益は3億30百万円（前年同期比1億45百万円 78.2%増）となりました。

水産食品事業

水産食品事業は、えび、カニ、凍魚、魚卵などの卸売りを主体とした水産食材卸売部門と食材調達、加工、納品業務を請け負うリテールサポート部門、ならびに厚焼玉子、水産練製品他の製造・加工販売を行う食品製造販売部門で構成されております。

水産食材卸売部門においては、主力のえびが世界的な需要増によって現地相場が上昇し、円安と相まって仕入コストは大幅に上昇しましたが、販売価格の改定がコスト増に追いつかず、売上高は昨年を上回ったものの、営業利益は昨年を下回りました。

リテールサポート部門においては、積極的な新規顧客の開拓により売上高は大幅に増加いたしました。市川流通センターの新設に伴う経費が増加したことや、労働生産性改善の進捗が遅れ営業利益は昨年を大幅に下回りました。

食品製造販売部門においては、主力の厚焼玉子の販売が順調に推移し、売上高は昨年を上回りましたが、原卵価格の高値横ばい、工場の部分的な改装費用等により営業利益は昨年を下回りました。

以上の結果、水産食品事業の売上高は624億92百万円（前年同期比162億72百万円 35.2%増）となり、営業損失は94百万円（前年同期は営業利益14百万円）となりました。

(2) キャッシュフローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、税金等調整前当期純損失が1億32百万円となり、減価償却費や仕入債務の増加による収入がありましたが、売上債権の増加などによる資金の減少により、当連結会計年度末の資金は15億98百万円（前年度末比5百万円増加）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は10億58百万円（前年同期は6億56百万円の獲得）となりました。これは主に減価償却費の増加等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は55百万円（前年同期は61億40百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は9億97百万円（前年同期は64億15百万円の獲得）となりました。これは主に借入金の返済による支出があったことによるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
水産食品事業	1,080	112.4
合計	1,080	112.4

（注）上記の金額には消費税等は含まれていない。

(2) 商品仕入実績

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
水産食品事業	56,751	135.8
合計	56,751	135.8

（注）上記の金額には消費税等は含まれていない。

(3) 受注状況

当社グループは、冷蔵倉庫事業においては保管サービスを伴う役務の提供が主たる事業であり、また、水産食品事業においては仕入販売や見込み生産が主たる事業であるため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
冷蔵倉庫事業	4,898	114.8
水産食品事業	62,492	135.2
合計	67,391	133.5

（注）1．セグメント間の取引については相殺消去している。

2．上記の金額には消費税等は含まれていない。

3．最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりである。

相手先	前連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）		当連結会計年度 （自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）	
	金額（百万円）	割合（％）	金額（百万円）	割合（％）
イオンリテール株式会社	14,306	28.3	14,736	21.9
コープみらい	131	0.3	7,652	11.4

3【対処すべき課題】

当社および当社グループは、昨年に続き顧客のニーズに的確に応え得る価値あるパートナーとして、堅実な成長をめざします。親会社である中央魚類株式会社を含めて当社グループ会社の経営資源（顧客・商材・人材・機能）を相互に活用しながら、水産物流通における役割を効率的に果たし、消費者の皆様に水産物の「おいしさ」や「安心・安全」をお届けします。

特に、平成28年11月開場が決定した豊洲新市場への移転も踏まえて人材育成に注力し全社的な組織体制の強化を図ってまいります。

冷蔵倉庫事業

首都圏における冷蔵保管機能の更なる充実と低温流通の品質向上、顧客サービスの強化を継続してまいります。なお、豊洲新市場への移転へ向けて本社機能を併設した豊洲冷蔵庫（22,400トン）を建設中であり、完成後はグループ会社共々有効活用して収益、顧客の拡大を図ってまいります。

水産食品事業

水産食材卸売部門については、お客様のニーズにお応えするため、引き続き国内外の調達力を強化してまいります。また、各支店、営業所の人材育成と組織体制の充実に取り組み、販売経路の拡充、収益の確保・拡大を図ってまいります。

リテールサポート部門については、引き続き事業規模拡大に伴う各拠点の人材育成に尽力するとともに、組織体制の充実に努めます。とりわけ市川流通センターについては、顧客の更なる拡大、新たな水産加工商材の開発ならびに労働生産性の向上を通じて収益の改善に注力してまいります。

食品製造販売部門については、グループ会社との連携をもとに新商品の開発と提案力を強化し、販売先の拡充に努めてまいります。また製造面では、生産能力・生産効率の向上に注力し、営業利益の改善を図ってまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、本項において将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 冷蔵倉庫事業について

当事業は冷蔵設備が首都圏に集中しているため、この地域において地震等の大規模自然災害が発生した場合は、物的・人的被害が予想され、事業が中長期的に中断される可能性があります。

(2) 水産食品事業について

水産食品事業につきましては、当社水産事業本部のほか、子会社である株式会社せんにち、株式会社水産流通、中央フーズ株式会社にて構成されております。

同事業の中核業務は、当社にて行っているえびを中心とした水産物の卸販売です。水産物は市況の変動が激しい商品であり、急激な変動は当社グループの売上高・収益に影響を及ぼすことがあり、商品在庫についても常にリスクが存在しております。特に、販売のウェイトの高いえびについては国内消費の低迷やグローバルな養殖えびの増大から相場の回復が遅れることも懸念されます。また、当社グループの養殖えびはインドネシアからの輸入仕入割合が高く、カントリーリスクを受けやすい状況にあります。

また、当社の子会社である株式会社せんにち は、水産練製品（厚焼、おぼろ等）他の製造・加工販売業を行っております。原料となる鶏卵につき、何らかの要因（飼料高騰の影響等）で急激な価格変動があった場合、あるいは鳥インフルエンザ問題等により鶏卵自体に安全性の問題が発生した場合には売上高・収益に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社の子会社である株式会社水産流通ならびに中央フーズ株式会社は、量販店へのリテールサポートを主業務としており、今後はより多くのお客さまに対応できるパブリック型のセンター施設による効率的な運営を目指しています。しかし、安心・安全に対する問題やオーバーストアによる競争激化から閉店等が発生した場合、売上高の減少に伴う手数料収入の減少が起こる可能性があります。

(3) コンピュータシステム障害について

当社の主要なコンピュータシステムにつきましては、水産食品事業の販売管理システム、冷蔵倉庫事業の冷蔵倉庫管理システムがあります。保守管理やセキュリティーには最大限の力を注いでおりますが、外的要因も含めてこれらのシステムに何らかの障害が生じた場合は事業の運営に多大の影響を及ぼす可能性があります。

(4) 経営成績の季節的変動について

当社グループの事業は、いずれの事業も水産品を中心商材としておりますので、お歳暮やお正月用食品購入の時期である12月は他の月に比べ売上高及び利益が高くなる傾向があります。また、水産練製品等の販売に関しては、節分の時期にも売上高及び利益が高くなる傾向があります。

(5) 食品の安全・安心について

BSE問題、鳥インフルエンザ問題および食品添加物問題、産地偽装問題等から食品に対する消費者の関心は非常に高まっております。当社グループは企業の社会的責任として法令遵守に徹し、安全で安心な食品の確保を第一としております。

しかしながら、水産業界で食品の安全性に問題が発生した場合は当社グループの業績も影響を受ける可能性があります。

(6) 貸倒れリスクについて

水産・食品業界における中間流通業者や加工業者は、急速な流通構造の変化とデフレ基調のなか、経営体質が弱ってきております。当社グループは与信管理の徹底を図るほか、顧客構造の多角化を進めておりますが、営業活動において得意先の破綻等が発生した場合、利益に影響を受ける可能性があります。

(7) 法令・規則等の遵守について

当社において、万一、法令・規則等に対する違反等があった場合、監督官庁による処分を受ける可能性がある他、当社の信用を著しく低下させ、業績に多大な悪影響を与える可能性があります。

(8) 個人情報の漏洩リスクについて

個人情報の保護については、社内規程等の整備等により、漏洩に対し万全の体制を期しておりますが、万一、個人情報が流出した場合は、当社グループの社会的信用が低下し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 豊洲新市場への移転について

新市場の開場が予定より大幅に遅れるような事態が発生した場合、冷蔵倉庫事業の収支計画に大きな影響がでる可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、実際の業績は様々な要因により、これらの予想と異なる場合があります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。なお、個々の「重要な会計方針及び見積り」については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりです。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、新設事業所における新規顧客との取引開始等により、前年対比増収となりましたが、それに伴う費用増大やのれんの減損損失などの結果、売上高673億91百万円(前年同期比169億4百万円 33.5%増)、営業利益2億36百万円(前年同期比36百万円 18.3%増)、経常利益2億83百万円(前年同期比7百万円 2.4%減)、当期純損失は2億95百万円(前年同期は1億25百万円の当期純利益)となりました。

セグメント別の業績概況

当連結会計年度より、従来の「水産物卸売事業」から「水産食品事業」へと報告セグメント名称を変更しております。なお、当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

ア．冷蔵倉庫事業

冷蔵倉庫事業は、本格稼働した市川物流センター(21,725トン)をあわせて、首都圏9ヶ所に冷凍・冷蔵保管スペース(14万トン)を有し、水産物を中心に畜産物、農産物およびその加工品の保管事業を行っております。当連結会計年度は、消費停滞により在庫回転数が低下したことと市川物流センターの庫腹増も含めて全般的に在庫量が増加したことにより保管料収入が増加しました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の売上高は48億98百万円(前年同期比6億32百万円 14.8%増)となり営業利益は3億30百万円(前年同期比1億45百万円 78.2%増)となりました。

イ．水産食品事業

水産食品事業は、えび、カニ、凍魚、魚卵などの卸売りを主体とした水産食材卸売部門と食材調達、加工、納品業務を請け負うリテールサポート部門、ならびに厚焼玉子、水産練製品他の製造・加工販売を行う食品製造販売部門で構成されております。

水産食材卸売部門においては、主力のえびが世界的な需要増によって現地相場が上昇し、円安と相まって仕入コストは大幅に上昇しましたが、販売価格の改定がコスト増に追いつかず、売上高は昨年を上回ったものの、営業利益は昨を下回りました。

リテールサポート部門においては、積極的な新規顧客の開拓により売上高は大幅に増加いたしました。市川流通センターの新設に伴う経費が増加したことや、労働生産性改善の進捗が遅れ営業利益は昨を下回りました。

食品製造販売部門においては、主力の厚焼玉子の販売が順調に推移し、売上高は昨年を上回りましたが、原価の高値横ばい、工場の部分的な改装費用等により営業利益は昨を下回りました。

以上の結果、水産食品事業の売上高は624億92百万円（前年同期比162億72百万円 35.2%増）となり、営業損失は94百万円（前年同期は営業利益14百万円）となりました。

経営成績について

ア．売上高

当連結会計年度の売上高は前年同期比169億4百万円増の673億91百万円となりました。

セグメント別にみると、冷蔵倉庫事業の売上高は、保管料収入などが増加したことにより、売上高は前年同期比6億32百万円増の48億98百万円となりました。水産食品事業においても、売上が昨年を上回ったため、売上高は前年同期比162億72百万円増の624億92百万円となりました。

イ．売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、冷蔵倉庫事業おける減価償却費などの増加、水産食品事業おける仕入コストの上昇などにより、前年同期比161億44百万円増の623億34百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、前年同期比7億24百万円増の48億21百万円となりました。

ウ．営業利益

営業利益は、前年同期比36百万円増の2億36百万円となりました。

エ．営業外収益・営業外費用

営業外収益は前年同期比7百万円減の1億93百万円となり、営業外費用は支払利息の増加により、前年同期比36百万円増の1億46百万円となりました。

オ．経常利益

経常利益は、支払利息の増加により前年同期比7百万円減の2億83百万円となりました。

カ．当期純損失

当連結会計年度の当期純利益は、経常利益の減少、特別損失の計上等に伴い2億95百万円の当期純損失となり、1株当たり当期純損失は3.53円となりました。

(3) 財政状態

資産の部

当連結会計年度末の資産合計は前連結会計年度末に比較して1億9百万円減少し243億13百万円となりました。

流動資産は、売掛金の増加等により、前連結会計年度末に比較して11億17百万円増加し93億82百万円となりました。

固定資産は、減価償却費の増加やのれんの一部減損などにより、前連結会計年度末に比較して12億27百万円減少し149億31百万円となりました。

負債の部

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比較して3億5百万円増加し190億87百万円となりました。

流動負債は、買掛金の増加等により、前連結会計年度末に比較して11億78百万円増加し102億97百万円となりました。固定負債は、長期借入金の返済等により、前連結会計年度末に比較して8億72百万円減少の87億89百万円となりました。

純資産の部

当連結会計年度末の純資産合計は、株主配当金の支払1億67百万円、当期純損失2億95百万円等により前連結会計年度末に比較して4億14百万円減少の52億26百万円となりました。

(4) キャッシュ・フローの分析
(キャッシュ・フローの指標)

内 訳	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期
自己資本比率	36.8%	31.2%	<u>21.8%</u>	<u>20.1%</u>
時価ベースの自己資本比率	69.9%	63.0%	<u>44.6%</u>	<u>47.6%</u>
キャッシュフロー対有利子負債比率	95.6%	8,050.4%	<u>1,766.1%</u>	<u>1,029.7%</u>
インタレスト・カバレッジ・レシオ	79.9倍	1.6倍	<u>6.7倍</u>	<u>7.6倍</u>

(注) 自己資本比率 : 自己資本 / 総資産
 時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額 / 総資産
 キャッシュフロー対有利子負債比率 : 有利子負債 / 営業キャッシュフロー
 インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュフロー / 利息の支払額

(5) 今後の方針について

次期の見通しにつきましては、国内経済は、財政・金融政策の効果により、引き続き回復基調にあると思われませんが、その一方で中国経済の減速懸念等もあり、景気の先行きについては依然不透明な状況にあります。

このような状況において当社グループは、安定的な売上と利益を確保するため、冷蔵倉庫事業においては、集荷営業活動を強化し、更なるコストダウンを図るとともに、特に新設した市川物流センターの収益改善に注力します。水産食品事業においては、水産食材卸売部門では、引き続き国内外の調達力を強化し、販売面においては、業務用問屋への拡販により収益を確保いたします。リテールサポート部門では、既設のセンターのコストダウンを図るとともに、新設した市川流通センターについては、顧客拡大、新商材開発、労働生産性の向上等を通じて収益改善に注力していきます。食品製造販売部門については、グループ会社との連携をもとに新商品の開発と提案力を強化し、販売先の拡充に努め、製造面では、生産能力・生産効率の向上に注力し、営業利益の改善を図ってまいります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループは、当連結会計年度において、主に冷蔵倉庫事業において、各冷蔵庫の既存設備の維持更新費用やフォークリフトなどのリース資産の計上などにより、2億47百万円の設備投資を行っております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品	建物仮 勘定	合計	
本 社 (東京都中央区)	全社共通	その他 の設備 (注) 2	26	-	18	-	4	-	48	20
築地冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 2	100	23	3	- (1,371)	0	-	128	8 [2]
豊海第一冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	93	43	22	- (2,396)	0	-	159	15 [3]
豊海第二冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	393	76	62	- (5,536)	1	-	533	17 [2]
豊海第三冷蔵庫 (東京都中央区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	418	92	44	- (6,008)	1	-	556	18 [3]
船橋冷蔵庫 (千葉県船橋市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 3	809	69	37	338 (7,258)	27	-	1,282	14 [6]
厚木物流センター (神奈川県伊勢原 市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備	1,761	160	33	797 (11,135)	18	-	2,771	18 [1]
市川物流センター (千葉県市川市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備	2,485	310	46	1,323 (10,778)	43	-	4,208	16
市川流通センター (千葉県市川市)	冷蔵倉庫事業	営業設 備	1,927	96	-	607 (4,950)	-	-	2,631	-

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品	建物仮 勘定	合計	
大井冷蔵庫 (東京都大田区)	冷蔵倉庫事業	営業設 備 (注) 4	0	-	5	-	0	-	6	9
横浜店他 (神奈川県横浜市 他)	水産食品事業(魚 惣菜販売店舗)	営業設 備 (注) 5	4	-	1	-	1	-	7	- [38]
水産営業部、支店 他(東京都中央区 他)	水産食品事業(本 社営業・支店・営 業所)	その他 の設備 (注) 5	4	-	1	-	1	-	6	25

(2) 国内子会社
株式会社
せんいち

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品	建物仮 勘定	合計	
本社事務所・物流 倉庫・東京事務所 他 (大阪府吹田市他)	水産食品事業	その他 の設備 (注) 6	74	0	42	117 (961)	0	-	235	33 [1]
本社工場 (大阪府吹田市)	水産食品事業	生産設備	135	34	7	90 (802)	6	-	274	16 [61]
本社あん工場 (大阪府吹田市)	水産食品事業	生産設備 (注) 7	14	4	-	- (498)	0	-	19	1 [17]

㈱水産流通

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内 容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	リース 資産	土地 (面積 ㎡)	工具器 具備品		合計
本 社 (東京都中央区)	水産食品事業	その他の設 備	-	-	-	-	1	1	4
伊丹水産センター (兵庫県伊丹市)	水産食品事業	営業設備 (注)8	81	25	-	-	4	111	17 [71]
水戸水産センター (茨城県水戸市)	水産食品事業	営業設備 (注)9	-	0	-	-	1	2	5 [21]
船橋水産センター (千葉県船橋市)	水産食品事業	営業設備 (注)10	107	16	-	-	0	125	2 [9]
市川センター (千葉県市川市)	水産食品事業	営業設備 (注)11	472	141	-	-	34	648	32 [122]

中央フーズ㈱

事業所名 (所在地)	セグメントの名 称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)
			建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	工具器具 備品	合計	
本 社 他 (東京都中央区他)	水産食品事業	その他の設備 (注)12	0	-	3	4	15 [6]

(注)1.金額には消費税等を含まない。

2.土地を賃借している。年間賃借料は13百万円である。

3.土地を賃借している。年間賃借料は187百万円である。

4.建物を賃借している。年間賃借料は151百万円である。

5.建物を賃借している。年間賃借料は18百万円である。

6.レインボー物流㈱に貸与中の建物53百万円を含む。

7.建物を賃借している。年間賃借料は12百万円である。

8.建物を賃借している。年間賃借料は27百万円である。

9.建物他を賃借している。年間賃借料は5百万円である。

10.建物を提出会社から賃借している。年間賃借料は34百万円である。

11.建物を提出会社から賃借している。年間賃借料は96百万円である。

12.建物を賃借している。年間賃借料は2百万円である。

13.上記の他、提出会社は豊洲新市場の予定地(東京都江東区)で土地を賃借している。年間賃借料は2百万円である。

14.土地の()は、保有面積(賃借の場合は賃借面積、保有と賃借両方の場合は、合算した面積)である。

15.従業員数の〔 〕は、臨時従業員を外書きしている。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

会社名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手日及び完了予定月	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了予定
提出会社	東京都 江東区	冷蔵倉庫事業	本社機能を 併設した冷 蔵倉庫	7,000	-	借入金	平成27年3月	平成28年9月

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成27年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年6月24日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	83,790,000	83,790,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数1,000株
計	83,790,000	83,790,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成20年4月1日	43,680,000	83,790,000	480,000	2,485,500	50,000	551,375

(注)中央冷凍株式会社との合併による増加である。合併比率はハウスイ1:中央冷凍株式会社45.5で、これにより中央冷凍株式会社の株式1株に対し当社の株式45.5を割当交付した。

(6)【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	19	36	46	28	2	3,410	3,541	-
所有株式数 (単元)	-	1,649	891	69,979	319	2	10,853	83,693	97,000
所有株式数の割合(%)	-	1.97	1.06	83.61	0.38	0.00	12.98	100.00	-

(注)期末日現在の自己株式は47,110株であり、「個人その他」の欄に47単元及び「単元未満株式の状況」の欄に110株を含めて記載してある。

(7)【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
中央魚類株式会社	東京都中央区築地五丁目2番1号	46,180	55.11
日本水産株式会社	東京都港区西新橋一丁目3番1号	23,278	27.78
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番10号	217	0.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	212	0.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	204	0.24
GMOクリック証券株式会社	東京都渋谷区桜丘町20番1号	202	0.24
鈴村 信夫	千葉県船橋市	200	0.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	184	0.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	176	0.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	164	0.20
計	-	71,017	84.75

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 47,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式83,646,000	83,646	-
単元未満株式	普通株式 97,000	-	-
発行済株式総数	83,790,000	-	-
総株主の議決権	-	83,646	-

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社ハウスイ	東京都中央区築地五 丁目2番1号	47,000	-	47,000	0.06
計	-	47,000	-	47,000	0.06

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	833	108,893
当期間における取得自己株式	110	15,510

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成27年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式買取りによる株式は含まれていない。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	47,110	-	47,220	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式買取りによる株式は含まれていない。

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元は、業績に裏付けられた安定的配当のできる収益体制の確立のもとに利益配分を行うことを基本方針としております。当社の剰余金の配当につきましては、期末配当として年1回行うことを基本的な方針としております。

当期の期末配当金につきましては、単体の当期純損失3億7百万円、連結の当期純損失2億95百万円を計上いたしましたが、繰越利益剰余金の一部を取り崩し、前年どおり上記方針に基づき、1株につき2円とさせていただきます。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。なお、当社は「剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める。」旨定款に定めております。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年5月14日 取締役会決議	167	2

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第76期	第77期	第78期	第79期	第80期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	141	147	180	190	147
最低(円)	58	77	93	101	119

(注) 上記は東京証券取引所(市場第一部)におけるものである。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
最高(円)	132	134	133	130	143	139
最低(円)	120	126	123	123	125	127

(注) 上記は東京証券取引所(市場第一部)におけるものである。

5【役員の状況】

男性 14名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		乃美 昭俊	昭和10年5月29日生	昭和34年3月 東京水産大学製造学科卒業 同 年同月 株式会社 新東西入社 平成3年6月 同代表取締役専務取締役 平成8年10月 合併により新日本コールド株式 会社常務取締役 平成11年6月 同常務取締役退任 同 年9月 中央冷凍株式会社取締役 平成12年5月 同常務取締役 平成14年5月 同専務取締役 平成15年5月 同代表取締役社長 平成20年4月 合併により当社代表取締役社長 平成23年6月 当社代表取締役会長就任(現)	(注)3	50
取締役社長 (代表取締役)	管理本部長	高橋 昌明	昭和20年4月13日生	昭和43年3月 東北大学経済学部卒業 同 年4月 日本水産株式会社入社 平成9年6月 同取締役首都圏営業部長 平成15年4月 同常務取締役 平成19年6月 同常務取締役退任 同 年同月 中央魚類株式会社専務取締役 平成20年4月 当社監査役 平成21年6月 同監査役辞任 同 年同月 株式会社水産流通代表取締役社 長 平成22年6月 当社取締役副社長 同 年同月 中央魚類株式会社取締役 平成23年6月 当社代表取締役社長就任(現) 平成26年6月 株式会社せんにち取締役会長就 任(現) 平成27年5月 株式会社水産流通代表取締役社 長就任(現)	(注)3	50
取締役副社長		小川 征英	昭和18年12月18日生	昭和37年3月 千葉県立銚子水産高等学校製造 科卒業 同 年4月 株式会社ニチレイ入社 平成9年4月 同本社水産部部长 平成15年6月 日新水産株式会社代表取締役社 長 平成16年4月 株式会社まるいち加工代表取締 役社長 平成18年5月 船橋中央魚類株式会社代表取締 役社長 平成19年6月 中央魚類株式会社取締役 平成20年6月 同常務取締役、営業本部本部長 平成22年6月 同取締役専務執行役員、営業本 部本部長 平成23年5月 船橋中央魚類株式会社代表取締 役社長 平成24年6月 中央魚類株式会社取締役副社 長・副社長執行役員、営業本部 長 平成25年6月 当社取締役 平成26年6月 当社取締役副社長就任(現) 平成27年1月 中央魚類株式会社代表取締役副 社長・副社長執行役員、営業本 部長(現)	(注)3	5

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役副社長		山下 勝征	昭和20年5月31日生	昭和43年3月 法政大学経営学部卒業 同 年4月 中央冷凍株式会社入社 平成9年7月 同厚木物流センター工場長 平成11年5月 同取締役営業推進部長 平成16年5月 同常務取締役 平成20年4月 合併により当社取締役常務執行役員 同 年同月 当社冷蔵事業本部長 平成23年6月 当社取締役専務執行役員 平成27年6月 当社取締役副社長執行役員就任(現)	(注)3	40
取締役	冷蔵事業本部長 兼 冷蔵営業部長	中島 廣	昭和23年2月21日生	昭和45年3月 東京水産大学製造学科卒業 同 年4月 中央冷凍株式会社入社 平成9年7月 同川崎冷蔵庫工場長 平成11年5月 同取締役営業推進部長 平成19年5月 同常務取締役 平成20年4月 合併により当社常務執行役員 同 年同月 当社冷蔵事業本部副本部長兼冷蔵営業部長 平成21年6月 当社取締役常務執行役員 平成26年6月 当社取締役専務執行役員就任(現) 平成27年6月 当社冷蔵事業本部長兼冷蔵営業部長(現)	(注)3	35
取締役	冷蔵事業本部 副本部長 兼 豊海第二・ 豊海第三 冷蔵庫所長	平野 潔	昭和27年2月19日生	昭和45年3月 山口県立水産高等学校卒業 同 年同月 中央冷凍株式会社入社 平成11年6月 同豊海第一冷蔵庫所長 平成20年4月 合併により当社豊海第一冷蔵庫所長 平成23年7月 当社理事・豊海第二冷蔵庫所長 平成24年6月 当社執行役員・豊海第二冷蔵庫所長 平成25年10月 当社豊海第三冷蔵庫所長兼務 平成26年6月 当社常務執行役員・豊海第二冷蔵庫所長兼豊海第三冷蔵庫所長(現) 平成27年6月 当社取締役就任(現) 同 年同月 当社冷蔵事業本部副本部長(現)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	水産事業本部長 兼 水産営業部長、 仙台・大阪 支店長、 福岡営業所長	佐藤 正	昭和33年10月30日生	昭和56年3月 東海大学海洋学部水産学科卒業 昭和63年3月 日東シュリンプ株式会社入社 平成13年4月 合併により当社営業第一部次長 平成22年4月 当社水産営業部長 平成24年6月 当社執行役員水産営業部長兼 仙台支店長(現) 平成25年1月 当社福岡営業所長兼務(現) 平成25年4月 当社大阪支店長兼務(現) 平成27年6月 当社取締役就任(現) 同 年同月 当社水産事業本部長(現)	(注)3	-
取締役		大滝 義彦	昭和18年2月21日生	昭和41年3月 法政大学工学部卒業 同 年4月 中央魚類株式会社入社 平成12年6月 同取締役 平成14年6月 同常務取締役 平成16年11月 同専務取締役 平成19年6月 同取締役副社長 平成22年6月 同代表取締役社長就任(現) 平成23年6月 当社取締役就任(現)	(注)3	10
取締役		水流 良一	昭和20年9月22日生	昭和43年3月 鹿児島大学水産学部水産製造 科卒業 同 年4月 東洋水産株式会社入社 昭和62年6月 PAC-MARU, INC. PRESIDENT 平成3年6月 東洋水産株式会社取締役 平成9年6月 同常務取締役 平成13年1月 海南東洋水産有限公司董事長 同 年同月 湛江東洋水産有限公司董事長 平成15年6月 東洋水産株式会社専務取締役 平成18年6月 同顧問 平成22年6月 中央魚類株式会社監査役 平成25年6月 同監査役辞任 同 年同月 当社取締役就任(現)	(注)3	10

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		長本 克義	昭和37年7月4日生	昭和62年3月 北海道大学水産学部卒業 同 年4月 日本水産株式会社入社 平成17年3月 同水産流通部長 平成20年3月 株式会社水産流通 取締役専務執行役員(現) 同 年6月 中央フーズ株式会社 取締役(現) 平成22年6月 当社執行役員(現) 平成27年6月 当社取締役就任(現)	(注)3	-
常勤監査役		田中 正	昭和24年6月7日生	昭和48年3月 専修大学法学部卒業 昭和63年2月 日東シュリンプ株式会社営業第一部長 平成3年2月 同取締役 同 年6月 仙台支店長 平成13年4月 合併により当社仙台支店長 同 年6月 当社取締役 平成20年3月 同取締役退任 同 年4月 同執行役員 平成21年4月 同仙台支店長兼大阪支店長 平成24年6月 同監査役就任(現)	(注)4	10
常勤監査役		有田 昇治	昭和23年11月12日生	昭和51年3月 東京水産大学漁業学科専攻科修了 同 年4月 中央魚類株式会社入社 平成14年5月 中央小揚株式会社取締役 平成17年2月 同代表取締役社長 平成24年6月 当社監査役就任(現)	(注)4	1

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役		堤 良昭	昭和21年7月22日生	昭和44年3月 日本大学経済学部卒業 同 年4月 中央魚類株式会社入社 平成12年6月 同取締役船凍部長 平成16年6月 同常務取締役 平成20年4月 当社取締役 同 年6月 中央フーズ株式会社代表取締役社長 同 年同月 中央魚類株式会社取締役 平成21年6月 当社取締役退任 平成22年6月 中央魚類株式会社取締役退任 同 年同月 当社取締役 平成25年6月 当社取締役退任 平成26年6月 中央フーズ株式会社代表取締役社長退任 平成27年6月 当社監査役就任(現)	(注)5	10
監査役		所 英樹	昭和29年8月26日生	昭和52年3月 東京水産大学食品学科卒業 同 年4月 株式会社小網(現 三井食品株式会社)入社 昭和56年10月 アーサーアンダーセンアンドカンパニー(現 アクセンチュア株式会社)入社 昭和58年1月 株式会社所芳樹会計事務所(現 株式会社ところ会計事務所)代表取締役社長就任(現) 平成22年3月 株式会社すかいらーく監査役 平成23年6月 当社監査役就任(現) 平成25年4月 株式会社せんにち監査役就任(現)	(注)5	-
計						221

- (注) 1. 取締役 水流 良一は社外取締役である。
2. 監査役 有田 昇治、所 英樹は社外監査役である。
3. 平成27年6月24日開催の定時株主総会の終結のときから1年間
4. 平成24年6月26日開催の定時株主総会の終結のときから4年間
5. 平成27年6月24日開催の定時株主総会の終結のときから4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(a) 企業統治の体制の概要

当社グループは、コーポレート・ガバナンスを最重要課題のひとつとして認識しており、公正で透明性の高い充実した監査・監督機能を具備するため下記の体制を構築しております。

ア．取締役会

取締役会は、本報告書提出日現在10名（うち社外取締役1名）で構成され、毎月1回の定例取締役会を、また必要に応じて臨時取締役会を開催し迅速に経営上の意思決定を行っております。

社長はグループを統治し、各事業部門の取締役が執行責任者となって、毎月冷蔵営業会議及び水産営業会議を行い、業務執行のスピードアップと業務責任の遂行を期しております。また、リスクマネジメント委員会、倫理委員会、環境委員会、品質保証委員会は担当役員が委員長となり、公正で透明性の高い会社組織の維持・発展に努めております。

また、取締役の経営責任を明確にするため、取締役の任期を選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までと定めております。

イ．監査役会

当社は監査役会制度を採用しております。本報告書提出日現在4名の監査役（うち社外監査役2名）が、法令、定款及び監査役会規程に従って監査を行っており、取締役会による重要な事項の決定と業務執行状況等を監査しております。

(b) 企業統治の体制を採用する理由

当社グループの企業統治は、株主・取引先・従業員・地域社会など多様なステークホルダーとの信頼関係の維持向上と、役割と責任の明確化・スピード化による取締役会機能の充実により企業価値の向上を目指すことを目的に、公正で透明性の高い充実した企業統治体制を構築いたしました。

(c) 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムの根幹は、経営理念に基づき制定したリスクマネジメント規程、倫理憲章、環境憲章、品質保証委員会規程を役職員に周知徹底させて、健全な会社経営を行うための内部統制システム体制を構築することにあります。

現在、組織管理と経営判断を行う組織として担当役員を委員長とした4つの委員会（リスクマネジメント委員会、倫理委員会、環境委員会、品質保証委員会）が設けられており、監査役による監査を受けるほか、取締役会への報告が年2回行われております。

ア．リスクマネジメント委員会

適切なリスクマネジメントの実行が経営の重要課題であるため、担当役員を委員長とするリスクマネジメント委員会を年2回開催し、当社グループの重要リスクの把握と影響度、対応策を協議するほか、緊急時には迅速に臨時の委員会を招集する体制となっております。

イ．倫理委員会

当社グループは倫理憲章を制定するほか、担当役員を委員長とする倫理委員会を年2回開催し、規程及び法令の遵守と正しく公正な行動を行うための活動をしております。また、倫理・法令違反行為に対応するため、内部通報制度を設けております。

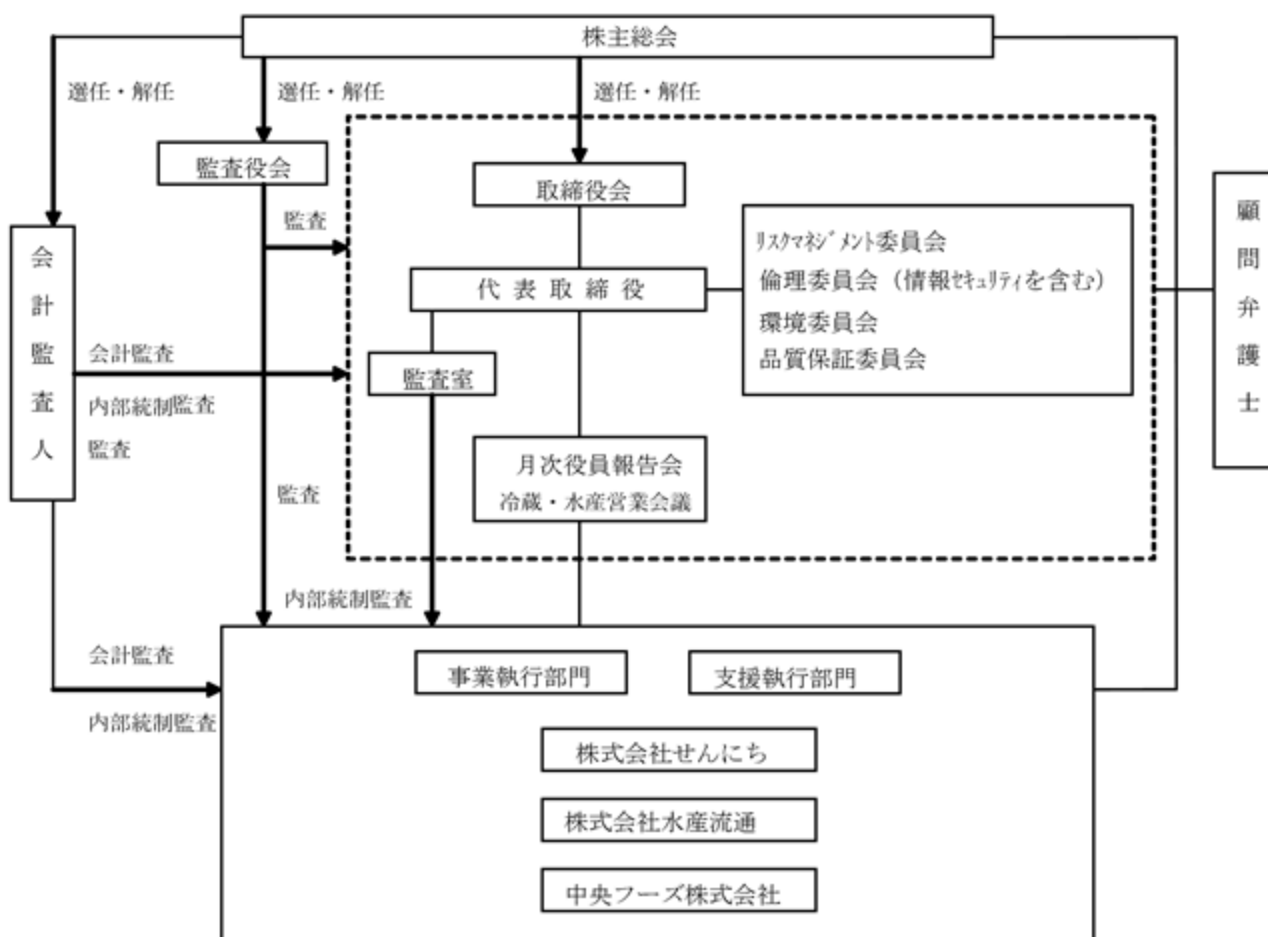
ウ．環境委員会

当社グループは環境憲章を制定するほか、担当役員を委員長とする環境委員会を年2回開催し、環境設備の設置や環境活動の実施に努めています。

エ．品質保証委員会

冷蔵倉庫事業及び水産食品事業の品質維持向上のため、担当役員を委員長とする品質保証委員会をそれぞれの事業で年2回づつ開催し、冷蔵倉庫事業の保管サービス、水産食品事業の商品保全に努めております。

(d) 内部統制の模式図（平成27年3月31日現在）



(e) リスク管理体制の整備状況

当社グループはリスクマネジメント委員会を設置し、想定されるリスクの重要度、影響度を調査して年2回取締役会に報告するとともに、リスクを未然に防止するため、リスクマネジメント規程を策定して早急に対応できるリスク管理体制を構築しております。

(f) 子会社の業務の適正を確保するための体制整備状況

当社は、関係会社管理規程を定め、同規程に基づき当社グループの事業運営を実施するものとし、当社の取締役等と子会社の取締役等との間で定期的にリスクマネジメント、コンプライアンス等の会合を行い、当社の経営方針の周知徹底を行うとともに、子会社から経営状況等の報告を受けるものとしています。

内部監査及び監査役監査の状況

内部監査部門として社長直轄の組織である監査室を設置し、当社及び当社グループのリスクマネジメントやコンプライアンスに係る内部統制システムと財務報告の信頼性を確保するための内部統制を実施して取締役会、監査役会に監査の結果を報告する体制をとっております。

また、監査役は、取締役会、月次役員報告会等に出席するほか、取締役及び使用人からその職務の執行状況の報告を受けるとともに、各監査役は業務状況を調査しております。

監査機能の実行性を高めるため、監査室は定期的または必要に応じて、監査役会と意見・情報等の交換を行い、相互に連携強化に努めております。また、監査役会は、会計監査人から監査の実施状況や監査計画など会計監査に関する報告を受けるとともに、意見交換を行うなど、会計監査人との相互連携をはかっています。

社外取締役及び社外監査役

本報告書提出日現在、当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役水流良一氏と当社との人的関係につきましては、当社の親会社である中央魚類株式会社の監査役を同氏がかつて務めていた経歴があります。資本的関係につきましては、同氏は本有価証券報告書提出日現在、当社株式を10千株保有しております。また、同氏と当社の間には特別の利害関係はありません。

同氏が監査役を務めていた中央魚類株式会社は、当社の議決権55.2%を保有する親会社であり、当社と中央魚類株式会社との間には商品売買、冷蔵保管の取引関係があり、当社は資金の借入を同社から行っております。

社外監査役有田昇治氏と当社との人的関係につきましては、同氏は、かつて当社の親会社である中央魚類の社員だった経歴があり、その後中央魚類株式会社の子会社である中央小揚株式会社の代表取締役社長を務めておりました。資本的関係につきましては、同氏は本有価証券報告書提出日現在、当社株式を1千株保有しております。また、同氏と当社の間には特別の利害関係はありません。

同氏が役員を務めていた中央小揚株式会社は中央魚類株式会社の100%子会社にあたります。なお、当社と中央小揚株式会社との間に重要な取引関係はありません。

社外監査役所英樹氏と当社の間で、人的関係、資本的関係及び特別の利害関係はありません。

また、当社と、同氏が役員もしくは使用人として務めていた他の会社との間に、人的関係、資本的関係または取引関係その他の利害関係について、重要なものはございません。

当社では、社外取締役又は社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割並びに当該社外役員を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針につきまして、特に制定しておりませんが、選任にあたっては、以下に述べる経歴に鑑み、当社との関係を踏まえて、当社経営陣から十分な独立性を確保し、当社の企業価値向上のため、客観的視点から当社の経営方針等の監視機能を充実させる職務を担えるものと判断し、選任いたしました。

水流良一氏は長年にわたり海外等で会社経営に携わった豊富な経験と見識を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役として選任いたしました。また、同氏につきましては、当社の間には特別の利害関係等ないことから、一般株主との利益相反を生じる恐れがないものと判断し、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

有田昇治氏は中央小揚株式会社の企業経営における豊富な経験や見識を活かし、当社の経営全般に対する監督と有効な助言を行い、客観的視点から社外監査役の職務を果たせるものと判断いたしました。

所英樹氏は公認会計士および税理士の資格を有しており、財務・会計に関する専門的見地ならびに監査役としての実務経験を有することから、同氏の適正な監査、助言により、客観的視点から社外監査役の職務を果たせるものと判断いたしました。また、同氏につきましては、当社の間には特別の利害関係等ないことから、一般株主との利益相反を生じる恐れがないものと判断し、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

また、社外取締役はこれまでの経験を踏まえて、各事業計画、特に海外経営戦略や内部統制システムに関する案件などに必要に応じて参画し、情報交換や意見交換を行います。社外監査役は上記「(1) 内部監査及び監査役監査の状況」にも記載のとおり、監査機能の実行性を高めるため、監査室や会計監査人と相互連携をはかり、監査機能の実行性の確保に努めております。

会計監査の状況

会計監査は監査法人和宏事務所に依頼しており、定期的な監査のほか、会計上の課題については随時確認を行い会計処理の適正性に努めております。

同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には特別の利害関係はなく、当社は会社法監査、金融商品取引法監査について監査契約を締結し、それに基づき報酬を払っております。

当期において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者は下記のとおりです。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名
業務執行社員：塩崎 省三、入沢 頼二
- ・会計監査業務に係る補助者
公認会計士 2名

役員報酬の内容

ア 役員区分ごとの報酬の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	125	111	-	14	-	8
監査役 (社外監査役を除く。)	13	13	-	-	-	1
社外役員	16	16	-	0	-	4

(注) 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれていない。

イ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ウ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません

エ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任の決議は議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役会の選任決議は累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、機動的な資本政策および配当政策を図るため、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計
14銘柄 320百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
森永製菓(株)	74,444	16	取引関係
日水製菓(株)	8,052	8	取引関係
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	9,260	5	取引関係
野村ホールディングス(株)	3,000	1	取引関係
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,770	1	取引関係
OUGホールディングス(株)	4,200	0	取引関係
(株)大水	1,398	0	取引関係

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
森永製菓(株)	78,464	33	取引関係
日水製菓(株)	8,052	11	取引関係
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	9,260	6	取引関係
野村ホールディングス(株)	3,000	2	取引関係
(株)みずほフィナンシャルグループ	7,770	1	取引関係
OUGホールディングス(株)	4,200	0	取引関係
(株)大水	1,398	0	取引関係

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	17	0	18	0
連結子会社	-	-	-	-
計	17	0	18	0

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士に対して報酬を支払った非監査業務の内容は、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法第17条第1項の規定による賦課金に係る特例の認定申請に関する手続業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士に対して報酬を支払った非監査業務の内容は、電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法第17条第1項の規定による賦課金に係る特例の認定申請に関する手続業務であります。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、規模・特性・監査日数等を勘案した上定めております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人和宏事務所により監査を受けております。

また、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人和宏事務所による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準の内容を適切に把握し、又は会計基準の変更等についての的確に対応できる体制を準備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研修等に参加して最新情報の収集を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,214	1,521
受取手形及び売掛金	4,054	5,617
商品及び製品	1,877	1,805
原材料及び貯蔵品	26	27
関係会社預け金	658	206
繰延税金資産	56	50
その他	399	173
貸倒引当金	23	20
流動資産合計	8,264	9,382
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,188	17,208
減価償却累計額	7,633	8,260
建物及び構築物(純額)	9,555	8,948
機械装置及び運搬具	3,677	3,738
減価償却累計額	2,422	2,641
機械装置及び運搬具(純額)	1,255	1,096
工具、器具及び備品	403	418
減価償却累計額	222	264
工具、器具及び備品(純額)	180	153
土地	3,304	3,300
リース資産	576	607
減価償却累計額	212	280
リース資産(純額)	364	326
建設仮勘定	-	14
有形固定資産合計	1 14,659	1 13,839
無形固定資産		
のれん	706	225
その他	200	215
無形固定資産合計	907	440
投資その他の資産		
投資有価証券	2 305	2 366
長期貸付金	11	67
繰延税金資産	148	110
その他	132	125
貸倒引当金	5	19
投資その他の資産合計	591	650
固定資産合計	16,158	14,931
資産合計	24,423	24,313

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,326	5,276
1年内返済予定の長期借入金	1,133	1,416
1年内返済予定の関係会社長期借入金	394	346
短期借入金	2,175	2,100
関係会社短期借入金	800	700
リース債務	115	114
未払法人税等	90	64
賞与引当金	75	73
役員賞与引当金	14	16
その他	995	1,187
流動負債合計	9,119	10,297
固定負債		
長期借入金	14,993	14,577
関係会社長期借入金	3,101	2,755
リース債務	252	215
退職給付に係る負債	891	860
長期未払金	122	110
長期預り保証金	6	10
本社移転損失引当金	147	147
繰延税金負債	-	4
負ののれん	146	109
固定負債合計	9,662	8,789
負債合計	18,781	19,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,485	2,485
資本剰余金	1,220	1,220
利益剰余金	1,590	1,127
自己株式	1	1
株主資本合計	5,294	4,831
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26	67
その他の包括利益累計額合計	26	67
少数株主持分	320	327
純資産合計	5,641	5,226
負債純資産合計	24,423	24,313

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	50,486	67,391
売上原価	46,189	62,334
売上総利益	4,296	5,057
販売費及び一般管理費	1,4097	1,4821
営業利益	199	236
営業外収益		
受取利息	7	3
受取配当金	1	2
負ののれん償却額	36	36
賃貸収入	69	67
補助金収入	17	-
雑収入	67	83
営業外収益合計	201	193
営業外費用		
支払利息	106	139
雑支出	4	6
営業外費用合計	110	146
経常利益	290	283
特別利益		
関係会社株式売却益	63	-
本社移転損失引当金戻入額	-	0
特別利益合計	63	0
特別損失		
減損損失	17	2403
店舗解約損失	-	4
事務所移転費用	1	-
割増退職金	-	1
損害賠償金	-	6
特別損失合計	19	416
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	334	132
法人税、住民税及び事業税	180	123
法人税等調整額	6	28
法人税等合計	173	151
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	160	284
少数株主利益	34	11
当期純利益又は当期純損失()	125	295

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	160	284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	41
その他の包括利益合計	11	41
包括利益	171	243
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	137	254
少数株主に係る包括利益	34	11

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包 括利益累計 額	少数株主持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金		
当期首残高	2,485	1,222	1,630	1	5,336	15	290	5,642
当期変動額								
剰余金の配当			167		167			167
連結範囲の変動		1	0		0			0
当期純利益			125		125			125
自己株式の取得				0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）						11	30	41
当期変動額合計	-	1	40	0	42	11	30	0
当期末残高	2,485	1,220	1,590	1	5,294	26	320	5,641

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包 括利益累計 額	少数株主持 分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合 計	その他有価 証券評価差 額金		
当期首残高	2,485	1,220	1,590	1	5,294	26	320	5,641
当期変動額								
剰余金の配当			167		167			167
当期純損失（ <u> </u> ）			295		295			295
自己株式の取得				0	0			0
株主資本以外の項目の当期変動 額（純額）						41	7	48
当期変動額合計	-	-	463	0	463	41	7	414
当期末残高	2,485	1,220	1,127	1	4,831	67	327	5,226

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	334	132
減価償却費	726	1,070
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21	31
減損損失	17	403
店舗解約損失	-	4
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	0	-
賞与引当金の増減額(は減少)	0	1
役員賞与引当金の増減額(は減少)	0	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	10
本社移転損失引当金の増減額(は減少)	-	0
受取利息及び受取配当金	9	5
支払利息	106	139
関係会社株式売却損益(は益)	63	-
のれん償却額	71	77
たな卸資産評価損	9	-
負ののれん償却額	36	36
売上債権の増減額(は増加)	43	1,563
たな卸資産の増減額(は増加)	413	71
仕入債務の増減額(は減少)	136	950
未収消費税等の増減額(は増加)	171	213
未払消費税等の増減額(は減少)	-	280
その他	260	105
小計	947	1,347
利息及び配当金の受取額	9	6
利息の支払額	97	139
法人税等の支払額	203	156
営業活動によるキャッシュ・フロー	656	1,058
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,265	161
無形固定資産の取得による支出	52	37
有形固定資産の売却による収入	-	16
投資有価証券の取得による支出	89	0
差入保証金の差入による支出	8	3
差入保証金の回収による収入	5	9
預り保証金の返還による支出	0	1
預り保証金の受入による収入	4	4
関係会社預け金の減少による収入	450	150
短期貸付けによる支出	0	25
短期貸付金の回収による収入	-	50
長期貸付けによる支出	5	56
長期貸付金の回収による収入	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	42	-
事業譲受による支出	1,221	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,140	55

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	5,650	8,300
短期借入金の返済による支出	4,175	8,654
長期借入れによる収入	5,650	-
長期借入金の返済による支出	427	348
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	167	167
少数株主への配当金の支払額	4	4
リース債務の返済による支出	110	123
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,415	997
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	931	5
現金及び現金同等物の期首残高	660	1,592
現金及び現金同等物の期末残高	1,592	1,598

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

(株)せんにち

(株)水産流通

中央フーズ(株)

(2) 非連結子会社はない。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社又は関連会社の数 0社

イ 持分法を適用していない関連会社の名称 北海道ベスカ(株) (株)柳河

ロ 持分法を適用していない理由

各社の当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外している。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致している。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

(イ) 関連会社株式

移動平均法による原価法

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

(イ) 商品・原材料

個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

(ロ) 貯蔵品

個別法に基づく原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)については定額法。建物以外については定率法(魚惣菜専門店の建物附属設備については定額法、子会社の一部センターについては建物以外も定額法)

ロ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

ハ 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用している。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当連結会計年度負担額を計上している。

ハ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上している。

- 二 本社移転損失引当金
本社移転に伴い発生する損失に備えるため、発生が見込まれる固定資産除却損について合理的な見積額を計上している。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
当社及び一部を除く連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用している。
- (5) 重要なヘッジ会計の方法
 - イ ヘッジ会計の方法
繰延ヘッジ処理によっている。ただし、為替予約取引については振当処理を適用している。
 - ロ ヘッジ手段とヘッジ対象
ヘッジ手段 ... 為替予約
ヘッジ対象 ... 外貨建債権債務に係る将来の為替変動リスク
 - ハ ヘッジ方針
為替変動リスクを回避するために行っている。
 - ニ ヘッジ有効性評価の方法
ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の判断を行っている。
- (6) のれん及び負ののれんの償却に関する事項
のれん及び負ののれんの償却については、10年間の定額法により償却を行っている。
- (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。
- (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
 - イ 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用している。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「雑収入」に含めていた「賃貸収入」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することになりました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の損益計算書において、「営業外収益」の「雑収入」に表示していた137百万円は「賃貸収入」に69百万円、「雑収入」に67百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当連結会計年度 (平成27年3月31日)	
土地	2,190百万円		2,190百万円	
建物	2,969 "	(840百万円)	2,785 "	(758百万円)
構築物	18 "	(18 ")	16 "	(16 ")
機械装置	70 "	(70 ")	74 "	(74 ")
計	5,249 "	(929 ")	5,066 "	(848 ")

担保付債務は、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)		当連結会計年度 (平成27年3月31日)	
1年内返済予定の長期借入金	133百万円	(38百万円)	416百万円	(38百万円)
長期借入金	4,993 "	(87 ")	4,577 "	(48 ")
計	5,126 "	(126 ")	4,993 "	(87 ")

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示している。

2 関連会社に対するものは、次のとおりである。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
投資有価証券(株式)	10百万円	10百万円

(連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
給与諸手当	921百万円	1,211百万円
貸倒引当金繰入額	1 "	10 "
賞与引当金繰入額	38 "	37 "
退職給付費用	52 "	53 "
役員退職慰労引当金繰入額	0 "	- "
役員賞与引当金繰入額	14 "	16 "
のれん償却額	71 "	77 "

2. 減損損失

当社グループは以下のとおり減損損失を計上いたしました。

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

用途	種類	会社名	金額
のれん	無形固定資産	株式会社せんにち	403百万円

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、事業譲受時に想定した収益が見込めなくなったことから、株式会社せんにちののれんの一部を減損することとし、403百万円を減損損失として特別損失に計上している。

(3) 資産のグルーピング方法

当社グループは、減損損失を認識するにあたっては、管理会計上の損益を把握する単位である事業部署別(惣菜販売店舗は店舗別、冷蔵庫は各冷蔵庫別)にグルーピングを行い、本社管理部門に係る資産は共用資産としてそれぞれの物件ごとに1つの資産グループとしている。

(4) 回収可能価額の算定方法等

のれんの回収可能価額については、将来の事業計画に基づいて算定している。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	17百万円	59百万円
組替調整額	- "	- "
税効果調整前	17 "	59 "
税効果額	6 "	18 "
その他有価証券評価差額金	11 "	41 "
その他の包括利益合計	11 "	41 "

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	83,790	-	-	83,790
合計	83,790	-	-	83,790
自己株式				
普通株式	44	1	-	46
合計	44	1	-	46

(注) 普通株式の自己株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加である。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	167	2	平成25年3月31日	平成25年6月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月13日 取締役会	普通株式	167	利益剰余金	2	平成26年3月31日	平成26年6月11日

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	83,790	-	-	83,790
合計	83,790	-	-	83,790
自己株式				
普通株式	46	0	-	47
合計	46	0	-	47

（注）普通株式の自己株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加である。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成26年5月13日 取締役会	普通株式	167	2	平成26年3月31日	平成26年6月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の 種類	配当金の 総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	167	利益剰余金	2	平成27年3月31日	平成27年6月10日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）
現金及び預金勘定	1,214百万円	1,521百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	30 "	30 "
関係会社預け金勘定	658 "	206 "
預入期間が3か月を超える関係会社預け金	250 "	100 "
現金及び現金同等物	1,592 "	1,598 "

(リース取引関係)

1. ファイナンスリース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

冷蔵倉庫事業における冷蔵保管に係る設備(車両運搬具、工具器具備品)、水産食品事業並びに本社部門における事務備品(工具器具備品)、車両運搬具などです。

(イ) 無形固定資産

冷蔵倉庫事業、水産食品事業におけるソフトウェアです。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

(減損損失について)

当連結会計年度にリース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融資産に対する取組方針

当社グループは、主に冷蔵倉庫事業の設備投資を行うため、銀行借入や関係会社借入により必要な資金を調達しております。一時的な余資は、関係会社預け金等で運用しております。また、デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を適時把握しております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、時価については、適時把握すると共に、期末時点で時価が著しく下落した場合は強制評価減を行っております。非上場株式については定期的に財務諸表を取り寄せ、財務内容を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。

水産食品事業の営業債権債務に一部外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されておりますが、将来の為替相場による損失を回避するため、為替予約取引において、財務上発生している為替リスクをヘッジし、リスク管理を効率的に行うためデリバティブ取引を導入しています。

借入金のうち、主なものは長期借入金であり、主に冷蔵倉庫事業の設備投資に係る資金調達です。償還日は最長で決算日後13年であります。

営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されていますが、当社グループでは、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

デリバティブ取引は、上述したとおり、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引です。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご覧ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、経理規程等に従い、営業債権については、得意先毎に債権の発生時期及び回収の予定時期を整理し、その回収状況に注意を払い、適切に管理しております。また、営業債権の残高確認を定期的に年1回以上行い、取引先との間に誤差が生じている場合には、遅滞なく原因を究明し、適切な対応を取っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するため、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループでは、担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新することによって管理をしております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるもの、あるいは、重要性が乏しいものについては、次表には含まれません(注2)参照)。

前連結会計年度（平成26年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
資 産			
(1) 現金及び預金	1,214	1,214	-
(2) 受取手形及び売掛金	4,054	4,054	-
(3) 関係会社預け金	658	658	-
(4) 投資有価証券 其他有価証券	61	61	-
負 債			
(1) 支払手形及び買掛金	(4,326)	(4,326)	-
(2) 短期借入金	(2,975)	(2,975)	-
(3) 長期借入金	(8,621)	(8,657)	36
(4) デリバティブ取引	-	-	-

当連結会計年度（平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
資 産			
(1) 現金及び預金	1,521	1,521	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,617	5,617	-
(3) 関係会社預け金	206	206	-
(4) 投資有価証券 其他有価証券	91	91	-
負 債			
(1) 支払手形及び買掛金	(5,276)	(5,276)	-
(2) 短期借入金	(2,800)	(2,800)	-
(3) 長期借入金	(8,094)	(8,319)	224
(4) デリバティブ取引	-	-	-

負債に計上されているものについては、()で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金 並びに(3) 関係会社預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

「投資有価証券 其他有価証券」はすべて株式であり、株式は取引所の価格によっております。

なお、其他有価証券の連結貸借対照表計上額と取得価額との差額については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金 (2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

なお、一年以内返済予定の長期借入金についても、当欄に含めて記載しております。

(4) デリバティブ取引

詳細は注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
非上場株式	233	264
関係会社株式	10	10

上記の非上場株式、関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(4) 投資有価証券 その他有価証券」には含まれていません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	1,206	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,054	-	-	-
関係会社預け金	658	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	-	-	-	-

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	1,511	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,617	-	-	-
関係会社預け金	206	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券の うち満期があるもの	-	-	-	-

(注4)借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	2,975	-	-	-	-	-
長期借入金	527	762	754	724	715	5,138
合計	3,502	762	754	724	715	5,138

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	2,800	-	-	-	-	-
長期借入金	762	754	724	715	716	4,422
合計	3,562	754	724	715	716	4,422

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得価額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	61	47	13
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	61	47	13
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		61	47	13

当連結会計年度（平成27年3月31日）

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得価額 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	91	48	42
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	91	48	42
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		91	48	42

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額 前連結会計年度233百万円、当連結会計年度264百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが困難と認められることから、上表のその他有価証券には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項ありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成26年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成26年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年 超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金 支払手形	497	-	(注)

当連結会計年度(平成27年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成27年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年 超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金 支払手形	781	-	(注)
	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	35	-	(注)

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金及び買掛金、支払手形と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金及び買掛金、支払手形の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関係

前連結会計年度(平成26年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成27年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	8百万円	6百万円
賞与引当金	26 "	24 "
その他	21 "	19 "
計	56 "	50 "
繰延税金資産(固定)		
退職給付に係る負債	359 "	313 "
貸倒引当金	2 "	6 "
その他	55 "	57 "
評価性引当額	169 "	166 "
計	247 "	210 "
繰延税金負債(固定)		
固定資産圧縮積立金	85 "	71 "
その他有価証券評価差額金	13 "	32 "
計	99 "	103 "
繰延税金資産の純額	205 "	157 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.7 "	7.1 "
受取配当金	0.6 "	1.6 "
住民税均等割	4.2 "	10.2 "
役員賞与	1.6 "	4.5 "
評価性引当額の増減	14.8 "	114.9 "
その他	11.6 "	3.8 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.9 "	11.3 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.0 "	114.6 "

3. 法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については33.1%に、平成28年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、32.3%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は15百万円減少し、法人税等調整額が15百万円、その他有価証券評価差額金が2百万円、それぞれ増加しております。

また、欠損金の繰越控除制度が平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から繰越控除前の所得の金額の100分の65相当額に、平成29年4月1日以後に開始する連結会計年度から繰越控除前の所得の金額の100分の50相当額に控除限度額が改正されたことに伴い、繰延税金資産の金額は1百万円減少し、法人税等調整額は1百万円増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額につき、重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に事業統括の本部を置き、水産物等の冷蔵保管及びその加工製品の販売、リテールサポートについて事業展開しており、「冷蔵倉庫事業」、「水産食品事業」を報告セグメントとしております。

「冷蔵倉庫事業」は、水産物等の冷蔵保管を行っております。「水産食品事業」は、水産物及びその加工製品の販売、リテールサポートなどを行っております。

なお、当連結会計年度より、従来の「水産物卸売事業」から「水産食品事業」へと報告セグメント名称を変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結財務諸表計 上額 (注) 1
	冷蔵倉庫事業	水産食品事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,266	46,220	50,486	-	50,486
セグメント間の内部売上高 又は振替高	101	17	119	119	-
計	4,368	46,237	50,606	119	50,486
セグメント利益	185	14	199	-	199
セグメント資産	14,091	9,913	24,004	419	24,423
その他の項目					
減価償却費(注) 3	606	118	724	5	729
減損損失	-	17	17	-	17
のれん償却額	-	71	71	-	71
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額(注) 3	4,661	2,121	6,782	0	6,783

(注) 1. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っている。

2. セグメント資産のうち、調整額に含めた全社資産の金額は419百万円であり、その主なものは管理本部に係る資産である。

3. 減価償却費及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用と同費用に係る償却額を含める。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 2	連結財務諸表計 上額 (注) 1
	冷蔵倉庫事業	水産食品事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,898	62,492	67,391	-	67,391
セグメント間の内部売上高 又は振替高	212	10	223	223	-
計	5,111	62,503	67,615	223	67,391
セグメント利益又は損失 ()	330	94	236	-	236
セグメント資産	13,382	10,535	23,918	395	24,313
その他の項目					
減価償却費(注) 3	895	170	1,066	4	1,070
減損損失	-	403	403	-	403
のれん償却額	-	77	77	-	77
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額(注) 3	167	117	284	0	285

(注) 1. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っている。

2. セグメント資産のうち、調整額に含めた全社資産の金額は395百万円であり、その主なものは管理本部に係る資産である。

3. 減価償却費及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用と同費用に係る償却額を含める。

【関連情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（百万円）

	冷蔵倉庫事業	水産食品事業	合計
外部顧客への売上高	4,266	46,220	50,486

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンリテール株式会社	14,306	水産食品事業

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（百万円）

	冷蔵倉庫事業	水産食品事業	合計
外部顧客への売上高	4,898	62,492	67,391

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
イオンリテール株式会社	14,736	水産食品事業
コープみらい	7,652	水産食品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

	水産食品事業	全社・消去	合計
減損損失	17	-	17

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

	水産食品事業	全社・消去	合計
減損損失	403	-	403

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

平成20年4月1日に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	水産食品事業	合計
当期償却額	36	36
当期末残高	146	146

平成25年5月1日に行われた企業結合により発生したのれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

	水産食品事業	合計
当期償却額	71	71
当期末残高	706	706

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

平成20年4月1日に行われた企業結合により発生した負ののれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	水産食品事業	合計
当期償却額	36	36
当期末残高	109	109

平成25年5月1日に行われた企業結合により発生したのれんの償却額及び未償却残高は、以下のとおりであります。

	水産食品事業	合計
当期償却額	77	77
当期末残高	225	225

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚類(株)	東京都中央区	2,995	水産物卸売事業	直接 55.2%	当社の商品の販売及び同社の商品の購入 役員の兼任	水産物の販売、冷蔵保管	227	売掛金他	21
							水産物の購入他	1,145	買掛金他	3
							資金の借入	2,400	関係会社借入金	2,424
							資金の返済	109		
							利息の支払	12	未払費用	0
主要株主	日本水産(株)	東京都千代田区	23,729	漁業その他の水産業、食品の製造加工及び販売	直接 27.8%	当社の商品の販売及び同社の製商品の購入 役員の兼任	水産物の販売他	462	売掛金他	37
							水産物の購入他	214	買掛金他	18

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る）
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会 社の子 会社	(株)ニッ スイ・ ジー ネット	東京都 千代田 区	10	金融業	-	当社の資金預 け入れ及び借 入れ	資金の借入	1,100	関係会 社借入 金	800
							資金の返済	1,200		
							資金の預入	0	関係会 社預け 金	0
							利息収入	0	未収利 息	0
							利息の支払	12	未払費 用	3

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚 類(株)	東京都 中央区	2,995	水産物卸 売事業	直接 55.2%	当社の商品の 販売及び同社 の商品の購入 役員の兼任	水産物の購入	3,526	買掛金	282
							資金の借入	1,250	関係会 社借入 金	1,071
							資金の返済	178		

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	北海道ベスカ(株)	北海道札幌市	20	水産食品事業	間接 50.0%	同社の商品の購入	水産物の購入 他	4,299	買掛金	389

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)

重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会社の子 会社	(株)ニッスイ・ジーネット	東京都千代田区	10	金融業	-	当社の資金預け入れ及び借入れ	資金の預入	658	関係会社預け金	658
							利息収入	6	未収入金	0

2. 親会社に関する注記

中央魚類株式会社(東京証券取引所市場第二部に上場)

当連結会計年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る）

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚類(株)	東京都中央区	2,995	水産物卸売事業	直接 55.2%	当社の商品の販売及び同社の商品の購入 役員の兼任	水産物の販売、冷蔵保管	299	売掛金他	48
							水産物の購入他	255	買掛金他	8
							資金の返済	215	関係会社借入金	2,208
							利息の支払	23	未払費用	0
主要株主	日本水産(株)	東京都港区	23,729	漁業その他の水産業、食品の製造加工及び販売	直接 27.8%	当社の商品の販売及び同社の製商品の購入 役員の兼任	水産物の販売他	450	売掛金他	52
							水産物の購入他	233	買掛金他	16

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
 - ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。
2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る）
重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会 社の子 会社	(株)ニッ スイ・ ジー ネット	東京都 港区	10	金融業	-	当社の資金預 け入れ及び借 入れ	資金の借入	2,200	関係会 社借入 金	700
							資金の返済	2,300		
							利息の支払	12	未払費 用	2

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る)

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	中央魚 類(株)	東京都 中央区	2,995	水産物卸 売事業	直接 55.2%	当社の商品の 販売及び同社 の商品の購入 役員の兼任	水産物の購入	6,760	買掛金	353
							資金の返済	178	関係会社 借入金	893

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	北海道ベスカ(株)	北海道札幌市	20	水産食品事業	間接 50.0%	同社の商品の購入	水産物の購入 他	4,221	買掛金	395

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- ・ 水産物の販売については、市場価格から総原価を勘案して取引ごとに決定している。
- ・ 水産物の購入については、市場価格から算定した価格、並びに相手先から提示された総原価を検討の上、取引ごとに決定している。

2. 取引金額には消費税等は含まれていないが、期末残高には消費税等が含まれている。

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)

重要な取引がないため、記載を省略しています。

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 被所有割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
その他 関係会社の子 会社	(株)ニッスイ・ジーネット	東京都港区	10	金融業	-	当社の資金預け入れ及び借入れ	資金の預入	206	関係会社預け金	206
							利息収入	2	未収入金	0

2. 親会社に関する注記

中央魚類株式会社(東京証券取引所市場第二部に上場)

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	63.54円	58.50円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	1.50円	3.53円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額又は当期純損失金額() (百万円)	125	295
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額()(百万円)	125	295
期中平均株式数(千株)	83,744	83,743

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,975	2,800	0.6	-
1年以内に返済予定の長期借入金	527	762	1.4	-
1年以内に返済予定のリース債務	115	114	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	8,094	7,332	1.4	平成28年～平成40年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	252	215	-	平成28年～平成33年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	11,964	11,224	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載している。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載していない。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりである。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	754	724	715	716
リース債務	98	70	38	7

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	15,106	31,403	50,778	67,391
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前四半期(当期)純損失金額()(百万円)	49	29	217	132
四半期純利益金額又は四半期(当期)純損失金額()(百万円)	43	8	102	295
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額()(円)	0.52	0.10	1.23	3.53

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり(当期)四半期純損失金額()(円)	0.52	0.42	1.33	4.76

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	80	342
受取手形	0	-
売掛金	2 3,023	2 3,048
商品	1,468	1,280
貯蔵品	9	14
前払費用	39	45
関係会社預け金	2 0	-
繰延税金資産	50	31
未収入金	2 24	2 23
その他	167	3
貸倒引当金	23	446
流動資産合計	4,842	4,344
固定資産		
有形固定資産		
建物	8,486	7,943
構築物	137	118
機械装置及び運搬具	1,025	872
工具、器具及び備品	123	100
土地	3,096	3,092
リース資産	304	276
建設仮勘定	-	14
有形固定資産合計	1 13,174	1 12,418
無形固定資産		
電話加入権	7	7
借地権	122	122
無形固定資産合計	129	129
投資その他の資産		
投資有価証券	268	320
関係会社株式	127	120
長期貸付金	5	5
長期差入保証金	114	106
繰延税金資産	130	87
その他	9	8
投資その他の資産合計	656	649
固定資産合計	13,961	13,197
資産合計	18,803	17,541

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	438	534
買掛金	2 1,695	2 1,481
短期借入金	1 1,033	1 1,216
関係会社短期借入金	2 1,315	2 967
リース債務	94	95
未払金	50	19
未払費用	2 191	2 211
未払法人税等	76	29
預り保証金	62	61
賞与引当金	60	61
役員賞与引当金	14	14
前受金	51	49
その他	22	191
流動負債合計	5,106	4,934
固定負債		
長期借入金	1 4,993	1 4,577
関係会社長期借入金	2 2,208	2 2,040
リース債務	211	181
長期未払金	101	101
退職給付引当金	856	817
本社移転損失引当金	147	147
預り保証金	5	9
固定負債合計	8,523	7,874
負債合計	13,630	12,808
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,485	2,485
資本剰余金		
資本準備金	551	551
その他資本剰余金	376	376
資本剰余金合計	928	928
利益剰余金		
利益準備金	70	70
その他利益剰余金		
別途積立金	1,246	1,246
修繕積立金	80	80
固定資産圧縮積立金	154	148
繰越利益剰余金	190	278
利益剰余金合計	1,740	1,266
自己株式	6	6
株主資本合計	5,148	4,673
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	24	59
評価・換算差額等合計	24	59
純資産合計	5,172	4,733
負債純資産合計	18,803	17,541

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	1 18,718	1 19,556
売上原価		
商品期首たな卸高	1,116	1,468
当期商品仕入高	13,855	13,478
合計	14,971	14,947
商品期末たな卸高	1,468	1,280
商品売上原価	13,502	13,666
冷蔵事業原価	3,813	4,422
売上原価合計	1 17,315	1 18,088
売上総利益	1,402	1,467
販売費及び一般管理費	1, 2 1,187	2 1,145
営業利益	214	322
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	7	7
賃貸収入	51	47
補助金収入	17	-
その他	25	18
営業外収益合計	1 102	1 73
営業外費用		
支払利息	93	124
その他	2	3
営業外費用合計	1 96	1 128
経常利益	220	267
特別利益		
関係会社株式売却益	66	-
本社移転損失引当金戻入額	-	0
特別利益合計	66	0
特別損失		
減損損失	17	-
店舗解約損失	-	4
関係会社株式評価損	3 82	3 7
貸倒引当金繰入額	-	4 426
特別損失合計	100	439
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	186	171
法人税、住民税及び事業税	134	89
法人税等調整額	1	46
法人税等合計	132	136
当期純利益又は当期純損失()	54	307

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
						別途積立金	修繕積立金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	165	292	1,854
当期変動額										
剰余金の配当									167	167
当期純利益									54	54
固定資産圧縮積立金の積立								0	0	-
固定資産圧縮積立金の取崩								12	12	-
自己株式の取得										
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	11	101	113
当期末残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	154	190	1,740

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	5	5,261	15	5,277
当期変動額				
剰余金の配当		167		167
当期純利益		54		54
固定資産圧縮積立金の積立		-		-
固定資産圧縮積立金の取崩		-		-
自己株式の取得	0	0		0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			9	9
当期変動額合計	0	113	9	104
当期末残高	6	5,148	24	5,172

当事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金合計
					別途積立金	修繕積立金	固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	154	190	1,740
当期変動額										
剰余金の配当									167	167
当期純損失()									307	307
固定資産圧縮積立金の積立								7	7	-
固定資産圧縮積立金の取崩								12	12	-
自己株式の取得										
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	5	469	474
当期末残高	2,485	551	376	928	70	1,246	80	148	278	1,266

	株主資本		評価・換算差額等	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	6	5,148	24	5,172
当期変動額				
剰余金の配当		167		167
当期純損失()		307		307
固定資産圧縮積立金の積立		-		-
固定資産圧縮積立金の取崩		-		-
自己株式の取得	0	0		0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			35	35
当期変動額合計	0	474	35	439
当期末残高	6	4,673	59	4,733

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

・時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

・時価のないもの

移動平均法による原価法

(3) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

(4) たな卸資産の評価基準及び評価方法

・商品、原材料

個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

・貯蔵品

個別法に基づく原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)については定額法。建物以外については定率法(魚惣菜専門店の建物附属設備については定額法)

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用している。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込額を計上している。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上している。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上している。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、期末における退職給付債務に基づき計上している。

(5) 本社移転損失引当金

本社移転に伴い発生する損失に備えるため、発生が見込まれる固定資産除却損について合理的な見積額を計上している。

4. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっている。ただし、為替予約取引については振当処理を適用している。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 ... 為替予約

ヘッジ対象 ... 外貨建債権債務に係る将来の為替変動リスク

(3) ヘッジ方針

為替変動リスクを回避するために行っている。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の変動額の累計額とヘッジ対象の変動額の累計額を比較して有効性の判断を行っている。

5. その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用している。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「賃貸収入」は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することになりました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた76百万円は「賃貸収入」に51百万円、「その他」に25百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりである。

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
土地	2,190	百万円	2,190	百万円
建物	2,969	" (840百万円)	2,785	" (758百万円)
構築物	18	" (18 ")	16	" (16 ")
機械装置	70	" (70 ")	74	" (74 ")
計	5,249	" (929 ")	5,066	" (848 ")

担保付債務は、次のとおりである。

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
1年内返済予定の長期借入金	133	百万円 (38百万円)	416	百万円 (38百万円)
長期借入金	4,993	" (87 ")	4,577	" (48 ")
計	5,126	" (126 ")	4,993	" (87 ")

上記のうち、()内書は工場財団抵当並びに当該債務を示している。

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

関係会社に対する資産及び負債は次のとおりである。

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
短期金銭債権	1,386	百万円	1,257	百万円
短期金銭債務	1,613	百万円	998	百万円
長期金銭債務	2,208	百万円	2,040	百万円

3 保証債務

他の会社の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
中央フーズ(株)	400	百万円	800	百万円
(株)せんにち	1,071	百万円	893	百万円
(株)水産流通	375	百万円	100	百万円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれている。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	6,073百万円	5,328百万円
仕入高	2,285百万円	734百万円
営業取引以外の取引による取引高	74百万円	40百万円

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度28%、当事業年度25%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度72%、当事業年度75%である。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
役員報酬	136百万円	139百万円
給与諸手当	259百万円	264百万円
貸倒引当金繰入額	5百万円	3百万円
賞与引当金繰入額	22百万円	23百万円
退職給付費用	42百万円	42百万円
役員賞与引当金繰入額	14百万円	14百万円

3 関係会社株式評価損

株式会社せんにちの株式減損処理に伴う評価損である。

4 当社の連結子会社である株式会社せんにちは、債務超過であり、同社に対する売掛債権に対し、当事業年度の債務超過相当額426百万円を貸倒引当金繰入額として計上している。

(有価証券関係)

子会社株式(前事業年度の貸借対照表表計上額は関係会社株式127百万円、当事業年度の貸借対照表表計上額は関係会社株式120百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	8百万円	144百万円
賞与引当金	21 "	20 "
本社移転損失引当金	52 "	47 "
退職給付引当金	341 "	297 "
その他	53 "	36 "
評価性引当額	196 "	327 "
繰延税金資産合計	279 "	219 "
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	85 "	71 "
その他有価証券評価差額金	12 "	28 "
繰延税金負債合計	97 "	99 "
繰延税金資産の純額	181 "	119 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.5 "	3.2 "
受取配当金	1.1 "	1.2 "
住民税均等割	6.3 "	6.5 "
役員賞与	2.9 "	3.0 "
評価性引当額の増減	26.6 "	95.5 "
その他	8.7 "	1.5 "
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	2.5 "	6.7 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	71.0 "	79.6 "

3. 法人税等の税率の変更等による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、32.3%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は11百万円減少し、法人税等調整額が11百万円、その他有価証券評価差額金が2百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却累 計額 (百万円)
有形固定資産						
建物及び構築物	8,623	43	16	587	8,062	7,851
機械装置及び運搬具	1,025	35	0	188	872	2,478
工具、器具及び備品	123	2	0	25	100	211
土地	3,096	-	4	-	3,092	-
リース資産	304	76	1	102	276	248
建設仮勘定	-	14	-	-	14	-
有形固定資産計	13,174	171	23	904	12,418	10,789
無形固定資産						
電話加入権	7	-	-	-	7	-
借地権	122	-	-	-	122	-
無形固定資産計	129	-	-	-	129	-

(注) 当期増減額は、主に各冷蔵庫の既存設備の維持更新費用やフォークリフトなどのリース計上によるものである。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	23	446	23	446
賞与引当金	60	61	60	61
役員賞与引当金	14	14	14	14
本社移転損失引当金	147	-	0	147

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	平成21年1月15日当社株式取扱規程の改正により、単元未満株式の買取りに係る買取手数料は無しといたしました。
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、東京都内で発行する日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	なし

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社の金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第79期）（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）平成26年6月25日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

平成26年6月25日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第80期第1四半期）（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）平成26年8月13日関東財務局長に提出

（第80期第2四半期）（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）平成26年11月13日関東財務局長に提出

（第80期第3四半期）（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）平成27年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成26年6月27日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づくものであります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成28年4月14日

株式会社ハウスイ
取締役会 御中

監査法人 和宏事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大塚 尚吾

業務執行社員 公認会計士 畝 照尚

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスイの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハウスイ及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は訂正前の連結財務諸表に対して平成27年6月23日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年 4月14日

株式会社ハウスイ

取締役会 御中

監査法人 和宏事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大塚 尚吾

業務執行社員 公認会計士 畝 照尚

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスイの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第80期事業年度の訂正後の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハウスイの平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は訂正前の財務諸表に対して平成27年6月23日に監査報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。